

しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。

わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。

## 高松泉キリスト教会 ニュースレター

第 177 号 (2024 年 12 月号)

# いずみ

香川県高松市伏石町 2018-5  
Tel & Fax 087-867-2302  
<http://izumichurch.holy.jp/>  
発行人 宮地 宏一



# Merry Christmas

クリスマス、おめでとうございます！先月、長野在住の友人牧師と自転車で、小豆島を巡りました。最初の目的地・エンジェルロードまでは順調でした。そこで地元の方に「オリーブ公園まで、自転車で何分ぐらいですか？」と尋ねると「え！自転車で行くの？1 時間半はかかるよ」私の下調べでは、30 分ぐらいでした。だから友だちに「自転車で行ったことないから、大げさに言っているんだよ」なんて話して、いざ出発。上り坂をいくつも超え、ヘロヘロになって、ようやく到着。直後に時計を見た友人が一言。「ちょうど 1 時間半！」笑

人のことばを信用することの大切さ、思い込むことの愚かさを痛感した私でした。2025 年はもっと素直に、聖書のことばと人のアドバイスを聞きます！2024 年も大変お世話になりました～



今月も皆様とご家庭の上に、神さまからの恵みが豊かに注がれますように。

(2024.12.01)



## 羊と私たち

先日、たまたま寄ったところで移動動物園をしていました。アルパカ、ウサギ、モルモット、フクロウ、羊など結構たくさんの動物がいたのです。子どもたちは、アルパカにニンジンをおあげたり、ウサギを抱っこしたりして大喜び。彼らが楽しんでいる間、私はずっと羊をながめていました。

聖書の中には、羊に関する記述が意外と多いのです。最初に、人が家畜として飼ったのは羊でした。イスラエルの二代目の王ダビデは、もともと羊飼いで「主は私の羊飼い」と神さまを呼んでいます。また最初に、イエスさまの誕生を天使から知らされたのは、羊の番をしていた羊飼いたちだったのです。羊は聖書の時代の人たちにとって、一番身近な動物だったのでしょう。



私が牧師になるために学んでいた千葉にある神学校では、羊を三匹飼っていたのです。恐らく、羊と生活することで、聖書の世界をより深く知るという意図があったのでしょう。彼らは毎日のようにのんびり中庭で雑草を食べ、そこら中にフンを落としていました。この印象があまりにも強くて、その他の羊の特徴を思い出せなかったのです。ですから今回、移動動物園の園長さんに羊の特徴について教えてもらいました。

第一に【寂しがりで、一匹だと弱ってしまう】今回 一匹だけ連れて来る予定が、もう一匹が鳴いたので、仕方なく連れてきたとのこと。そういえば神学校の羊は 2 匹亡くなってしばらくすると、残された一匹の羊の元気がなくなり、早々に亡くなってしまったのです。





第二に【弱みを見せず、強がり】そのため怪我をしても隠してしまい、園長さんが怪我に気づいたときには手遅れなんてことがあるそうです。ですから日頃から、羊たちをしっかりと観察し、ケアする必要があるようです。

このように羊と私たちって、よく似ています。私たちも一人だと弱ってしまう。まれに一匹狼のような人もいますが、ずっと一人で生きていけるわけではありません。家族や友人と断切されたままだと私たちは徐々に弱り、生きる希望が失われるのです。

また私たちは弱く・傷つきやすいのに、その傷を一生懸命隠し、強がっています。それは、この世において 傷があり、弱く欠けがあることは、マイナスに評価されやすいからです。けれど弱さ・傷を隠せば隠すほど自分をどんどん追い込んでしまうのです。私も以前、誰にも悩みを相談できず、潰れそうになったことがありました。けれど自分の弱さ・傷を思い切って友人に打ち明けたときから、心がスーと楽になったのです。

もう一つ、私たちが羊と似ている点は、私たちにも羊飼いのように導き、ケアして下さる方が必要だということです。実は聖書に、私たちはさまよえる羊なのだがあります。



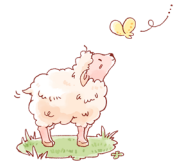
私は小さい頃、よく迷子になり、両親を心配させました。けれど当の私は自分が迷子になっているという認識は全くありませんでした。同じように、自分が迷子であると思っている人はほとんどいないでしょう。自分の家が分からないわけでも、家族と離ればなれになったわけでもないからです。

それなのに、どうして私たちは迷子なのでしょう。それは私たちを造り、愛して下さる神さまのもとに帰ることができていないからです。すなわち本当の神さまを知らずに生きるなら、私たちは自分の生きている目的が分からず、ずっと迷ったままなのです。

そんな私たちの導き手、良い羊飼いとなってくださるために、神のひとり子イエスさまが今から約2000年前の最初のクリスマスに幼子として、この地上に誕生されました。そしてイエスさまは羊飼いのいない羊のように、弱り果て倒れそうになっている人々をあわれみ、導き、ケアされたのです。このイエスさまが今も私たちを見守り、ケアし、導き続けてくださっているのです。このイエスさまに付いていくなら、私たちは決して迷うことはありません。

主は私の羊飼い。

私は乏しいことはありません。[聖書]



### ☆ 「クリスマス礼拝」 12月22日(日)10:30-12:00

ともにクリスマスソングを歌い、イエス様のお誕生をお祝いしましょう。

### ☆ 「クリスマス・キャンドルサービス」 12月24日(火)19:00-20:00

ろうそくの明かりの中で、イエス様のお誕生について思い巡らします。

### ☆ 「新年感謝礼拝」 1月1日(水)10:30-11:30

一年のスタートは、ぜひ礼拝から。2025年も聖書のみことばを聞いて始めましょう。



- 礼 拝 毎週日曜日 10:30~12:00
- イズミン・キッズ 毎週日曜日 9:30~10:20
- おやこ de えほん 毎週水曜日 10:30~12:00



\* どなたでも歓迎いたします！すべて事前申込みなしで参加いただけます。

上記の他に様々な相談や聖書の学びをすることができます。お気軽にお問い合わせください。